

アタッチメント・ライフ



第12回

育児セラピスト全国大会 in2021

わたしにとっての「子育て」を真剣に考えるとき



第12回 育児セラピスト全国大会 in2021

私にとっての「子育て」を真剣に考えるとき

- P1 開会あいさつ
アタッチメント・アカデミアお披露目

1日目：スキルアップ講座

- P4 アタッチメント・ペアレンティング指導員

2日目：シンポジウム

- P9 遠藤利彦先生 基調講演
「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」

優秀実践者表彰式・実践発表

- P14 保育・子育て支援部門 大月 由華 さん
「これでいいのか？」と悩む保育から、
「あれをしてみよう！これもためしてみよう！」の保育に
- P16 アタッチメント教室部門 輪田 英里 さん
学びの素直さと実行力で、ママから先生に
- P20 恒例！お悩みスーパーバイズ 2021
- P26 スタッフよりあとがき
- P27 一般社団法人 日本アタッチメント育児協会の 講座一覧
- P28 大学認定養成校のご紹介
- P29 法人研修・団体研修のご紹介 / 原稿・コンテンツ執筆・監修のご紹介

資格アイコン

- 育児セラピスト
-  前期課程 (2級)
 -  後期課程 (1級)
 -  シニアマスター
 -  ライフサポーター
- エントリー
-  アタッチメント・ベビーマッサージ
 -  アタッチメント・ヨガ(forマタニティ&ベビー)
 -  アタッチメント・食育
 -  ベビーキッズ・あそび発達
 -  プレスクール・あそび発達
 -  子育てマインドフルネス
 -  アタッチメント発達支援 アドバイザー
- スキルアップ
-  アタッチメント・キッズマッサージ
 -  アタッチメント・ジム
 -  アタッチメント心理カウンセラー
 -  トレーナー

第12回 育児セラピスト全国大会 in2021

開会あいさつ

2021年…

今年の全国大会は、第1回から数えて12回目となります。わたしは、「12」という数字を、ものごとの周期の節目としています。つまり、この全国大会も1周して次のステージに入るといことです。

図らずもこのタイミングで、『アタッチメント・アカデミア』をオープンして、今回のメイン会場として、みなさんにお披露目することができるのは、わたしとしては、本当に“神のめぐりあわせ”だと思っています。ここから、日本アタッチメント育児協会のあらたな物語を、みなさんといっしょに、つむいでいきたいと思っています。どうぞ、これからもおつき合いをよろしくお願いいたします。

では、ここに第12回全国大会を開催いたします。



アタッチメント・アカデミアお披露目

最初に、このアタッチメント・アカデミアのオンラインツアーをしていきましょう。エレベーターを降りると、こんなエントランスです。向かって左がメインの「アタッチメントルーム」。右側は講座やセミナーを行う「アカデミアールーム」です。



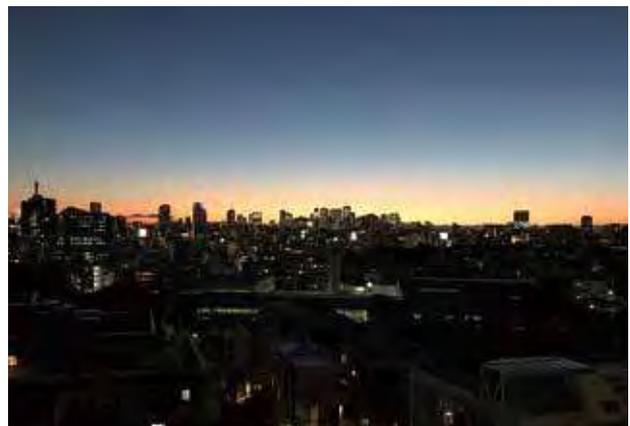
「アタッチメントルーム」は、当協会のコンセプトカラーであるグリーンとオレンジをあしらい、木目の床や柱で、杉材の天板の机、スイスのVITRA社のカラフルなイスを合わせて、明るくて楽しいインテリアになっています。



「アカデミアルーム」は、対照的にシックな雰囲気です。グレーとブラックを基調にして、差し色に協会カラーを入れています。ブラックのイスは、ハーマンミラー社のエルゴノミックデザインの本メッシュチェアで、長時間座っても疲れません。また、天吊りの大画面ディスプレイを完備し、ハイブリッド授業対応となっています。



もうひとつ、アタッチメント・アカデミアのかくれたよいところをご紹介します。アカデミアルームの窓から見える眺望です。新宿の高層ビル群が遠くにのぞめて、昼も夜も良い眺めです。ここはビルの7階で高層階ではないのですが、文京区春日という土地が高台にあり、眺望を妨げる建物がありません。わたしは、この物件に出会って、この眺望を目にして心が決まったのを覚えています。



ここから学校をはじめます



このアタッチメント・アカデミアから、「大人の学校」をはじめます。社会人経験をしたからこそ生じる問題意識や知的好奇心、それを満たしたいと思う人たちが集まって、いつでも学びに来られる場所です。

子育ても保育も教育も、このままでいいとは思えない。

なにか子どもたちのためにできることがあるはず。

お母さんの喜ぶ顔で、また頑張ろうと思える。

何歳になっても「学びたい欲求」は変わらない。

「成長したい気持ち」はいつもある。

学んだら、一皮むけた自分が、現場にもどって実践する。いままで見えなかった世界が見えてくる。それでも、また困難や問題が降りかかるでしょう。

必要になったら、いつでも帰ってきてください。そして、充分だと思ったら、また現場にもどって実践してください。

心が折れそうになったら、ここに帰ってきてください。心が満タンになるまで、話をしてください。

ここは、入学も卒業もありません。

アタッチメントにおける、“安全な避難所”と“安心の基地”は、子どもが使用しなくなっても、ずっとそこにある。そのことが重要です。アタッチメント・アカデミアは、そんな場所になることを目指します。



ここから、いろんなことを発信していこうと考えています。いろいろやってみようと思います。構想はかたまっています。ひとつひとつ階段をのぼるように、ゆっくりと進めていきます。亀の歩みかもしれません。わたしは、発達の階段を段とばして進むことはしません。

みなさんも、ご自分のペースで、これからも、おつきあいください。

一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

理事長 **廣島大三**

アタッチメント・ペアレンティング指導員



全国大会スキルアップ講座は、今年で12回目。その今回、前代未聞のことが起きてしまいました。これまで一度もなかったことです。想定外でした。なんと、今回のこの講座、2時間以上も延長したのです。0期は時間の見通しが立たないのは毎年のことです。それでも、これまでは、なんとか時間内か少しのオーバーで済んでいました。

今回のコンテンツは、30ページほど整理したのですが、それでも足りませんでした。正規版のリリースまでには、さらに内容を厳選して完成度を高める所存です。考えようによっては、「幻のフルバージョン」と言えるかもしれません。

こうしたことを、「ラッキー！」ととらえ楽しんでくださる方もいれば、「時間守れよ」と不快に思われた方もいると思います。こんなことが起こるのも「0期」ならではです。今回は、多くの方が常連だったので、そこはむしろハプニングを楽しんでいた雰囲気もあり、ほんとうに助けられました。とはいえ、みなさまの貴重な時間を、余分にに使わせてしまったのは事

実です。まことにご迷惑をおかけいたしました。これに懲りずに、今後もおつきあいくださいね！

アタッチメント理論に基づく子育ての 実践・検証・体系化

では、本論に入ろうと思います。わたしは、二人の娘の子育てを、20年をかけた縦断研究としてとらえて、アタッチメント理論に基づく子育てを実践してきました。今年2021年、次女が20歳をむかえ、わたしの研究は、区切りをむかえました。たった二人の対象では、学問的な価値も説得力もありません。

ところで、おなじ遺伝子、おなじ親、おなじ家、おなじ子育て方針のもとに育った二人の子どもが、どのように育ったか？その実践事例としては、十分に興味深く意義のあるものだと考えています。だからこそ今年、講座として体系化しようと決意しました。

背景が同じだからこそ、二人の共通点は、個人差に関係なく、どの子にも当てはめることができる要素。二人の相違点は、個人差によるところが大きい要素。

そんな仮説のもとにすすめました。すると、じつに根源的な法則にたどり着いたのでした。

それは、まさに「子育ての秘技」とあってよいと思っています。0期の今回、それがどこまで伝わったのか、いささか不安も残りましたが、確かな手ごたえと、今後の展望が見えたのも本心です。

ペアレンティングの答えは、アタッチメントにあった

今「アタッチメント・ペアレンティング」のコンセプトは、アタッチメントを基本方針とする子育てをすること、そのために体系化した育児法であり、育児理論であり、育児知識です。それともう一つ、親として10年先に結果がでることを、いまコツコツ取り組み、問題や悩みにあたったら、アタッチメントにその答えを見出す子育て。

このコンセプトのもとに、0～18歳までを、アタッチメント・ペアレンティングにおける5つの発達段階に分けたフレームをご紹介しました。各段階によって、親の行動や子どもとの距離感などを確認しました。

夫婦関係からひも解く「わたしの成り立ち」

講座では、夫婦関係も扱いました。夫婦という血のつながりのない家族という特殊な関係性だからこそ起



こるコミュニケーションのズレや関係維持の難しさを見ました。そのうえで、時代背景と夫婦のあり方の変遷をみます。1970年代のあたりまえは、バブル崩壊の1990年代には崩れ、2000年代には価値観はさらに変わり、2015年以降の現代は、そこからまた大きく変わっています。そうした時代背景が夫婦関係と子育てに与える影響は、思っている以上に大きいです。そこからは、「親の夫婦関係＝自分の育てられ方」、「自分の夫婦関係＝自分の子育て」が客観的に見えてきます。これが最初のワーク「わたしの成り立ち」につながります。

どんなアタッチメントを積み重ねてきたか = 非認知スキルの高さ

ここまできて見えてくるのは、非認知スキルの育ちとアタッチメントの密接な関わりです。それは、遠藤先生が講演でおっしゃっていたとおりです。アタッチメント理論に基づいて教育を考えれば、本質にたどりつくことができます。

そうは言っても現実の問題があります。「習いごと」をどう扱うか。スイミング、体操、ピアノ、学習塾、英会話・・・いまや何かしらの習いごとをするのはあたりまえ、毎日複数の習いごとを掛け持ちで通う子どもも珍しくはありません。





「**学校選び**」をどう捉えるか。小学校、中学校、高校をどうするか。お受験して小学校から付属に入れるのがよいのか、中高一貫校がいいのか。

教育に関して、親の悩みは尽きません。多くの親は、いまだにIQ やテストの点数といった「認知スキル」ばかりを見ます。だから、たくさんの習いごとをさせたいし、よい学校にできるだけ早く入れたいと考えます。そうして教育が、子どもの有能性を阻むボトルネックになってしまうのです。

本質はむしろ「非認知スキル」です。それを前提にすると、習いごとをしているかどうか、どこの学校に行くかも、じつは大きな影響はありません。講座では、それを解き明かしてゆきます。

同時に、子どもが将来どの分野にすすむか、どんな道にすすむかについては、親の期待どおりではないかもしれません。少なくとも言えることは、アタッチメントに基づいて教育を与えれば、なにかの道で、どこかの分野で、かならず有能性を発揮するということです。

親子関係は、 子どものパーソナリティを左右する

さらに講座では、「親子関係」に入っていきます。子どものパーソナリティの育ちには、親の関わり方が大きく影響することはご存じのとおりです。では、親と



して、まず重要なことはなにか？子どもの“持って生まれた性格”を、親がよくわかっていることです。しかし、このことは、あまり意識されることはありません。

感受性の強い子は、慎重に手をかけて育てる必要があります。逆に大らかな子なら、あまり手をかけなくても順調に育つかもしれません。“持って生まれた性格”によって、子育て方針は、変わるのです。

人間が「持って生まれた性格」を知る方法としての占星学

心理学者ユングは、この“持って生まれた性格”を知るために、占星学を用いました。講座では、ユングの用いた占星学による性格傾向を知る方法をご紹介します。占星学は、たんなる星占いではありません。太古の昔から“まつりごと”つまり政治において、統治者の傍らにいたのは、占星術師でした。ホロスコープによるこの方法は、言ってみれば「子育てにおける奥義」です。



持って生まれた性格傾向を知ること、子育ては圧倒的にやりやすくなります。子どもへの対応や接し方の見通しが立ちます。この恩恵は、わたしたちが思っている以上に大きなものであり、長期にわたるものです。受講生が、それぞれ自分のホロスコープを出して、占星学による持って生まれた性格傾向を知ることに取り組んだのが、2番目のワークでした。

子育て成功のカギは「子育て方針づくり」にある

そこからさらに、子育て成功のカギに入ります。これまでに学んできた知識や理論、枠組みは、ただ知っていればよいのでしょうか？闇雲に知識を広げたり深めたりすればよいのでしょうか？みなさんご想像のとおり、答えは“NO”です。

明確に言語化された「子育て方針」を、夫婦が共有して、しかるべき年齢になったら子どもとも共有して、その方向性の学びを広げたり深めたりする必要があります。現代は、情報が氾濫しています。なんの方針も持たないで情報を取りに行くと、かならず混乱し状況を悪くします。

そこで、10年後も、20年後も、子どもが自立した大人になるまで通用する「子育て方針づくり」について、4つのステップで、その作り方を解説しました。講座内では、その簡易版を作ってもらいました。これが、3つ目のワークです。

10年を見据えたライフプランをつくれれば、人生は充実する

最後の章は、「自主取組課題」ということで、「ライフプラン」をご紹介します。子育て中の受講生もいれば、わたしのように子育てを卒業した人もいます。それぞれ、人生の目的や優先順位は変わってでしょう。それぞれのライフプランを、いまから10年計画で作ることが目的です。そのための道筋をテキストにまとめています。



準備として4つ目のワーク「人生の優先順位を整理する」に取り組めます。生きるうえで優先順位は、非常に重要です。その割に、これを明確にしている人は、意外と少ないようです。優先順位が明確な人は、子育ても、仕事も、人間関係もうまくいきます。また、ライフプランを立てるうえでは、必要不可欠です。

そして、最後の5番目のワーク「10年後のライフプランをつくる」に取り組めます。ここまでの、受講生が自分で取り組んでみて、はじめてアタッチメント・ペアレンティングを人に教えることが出来ます。

「アタッチメント・ペアレンティング」を伝える

資格取得後は、教室やワークショップで、座学とともに、親御さんに、これら5つのワークに取り組んでもらいます。その恩恵は、実際にやってみてみなさんなら、わかることでしょう。

アタッチメント・ペアレンティング指導員養成講座の正規版リリースまでには、親教室用の座学テキストとワークを開発し、指導員が自由に使えるようにする予定です。0期の受講生からのフィードバックを基に、これから開発をすすめてまいります。どうぞお楽しみに！

アタッチメント・ペアレンティング指導員養成講座

0期担当講師 廣島 大三



アタッチメント・ペアレンティング指導員 受講生の感想

あらためて、パートナーの存在の大切さを認識しました

私が思っていたことを理事長が話してくださって、納得することばかりでした。

今回の講座を通して「パートナーと…」と何度も出てくるところから、「パートナー」の存在、協力が大切だということを感じました。

仕事をしていて、お父さんの協力をお願いし、お父さんの協力を得られると生徒が変化していくところを何度も見てきました。あらためて、パートナーの存在の大切さを認識しました。

今回、女性ばかりで、ぜひ男性の方にも聞いていただいて父親の協力も伝えてほしいなと思いました。

公務員 40代 埼玉県

親の子に対するゴール意識、夫婦関係、発達段階に応じた対応の仕方などは、この世の中に必要な内容だと思いました

親が子に対して、どのように応答していくと良いのかを教えてくれるところはあるが、親の子に対するゴール意識、夫婦関係、発達段階に応じた対応の仕方などは、この世の中に必要な内容だと思いました。

内容も素晴らしかったのですが、理事長のお子さんが参加されたことで、ご夫婦がしっかりと子育てをされてこられたこと、アタッチメントがやはり大切であることを実感できました。

東京都

自分の子育てをしている時に知っていれば、もう少し楽に子育てができたのかなと思いました

60代 富山県

自分が親としてどうであったのか、振り返る場となりました

自分が親としてどうであったのか、振り返る場となりました。自分の子育ては、まあまあ良かったのかなと振り返ることができました。

その子の特性や考えを大切にすること、理解すること、見守ること、とても大切なのだと実感しています。

親と関わるためには、今回のワークのように深くは関われないことが多いのですが、学生の背景を少しでも知り、関わっていくことを実践していきたいと考えました。

看護教員 40代 神奈川県

これからの子育て支援で向き合っていないといけないと思っていたことが取り入れられており、嬉しかったです

生まれた順番や HSP、発達特性などで、子育てに特別な配慮が必要な子どもたちがいること、そして、その親もおそらく似たような苦勞をしてきていること、社会の変化が子育てのあり様を変えることなどの要素が入ってきていて、これからの子育て支援で向き合っていないといけないと思っていたことが取り入れられており、嬉しかったです。

子育ては孫育てがはじまって初めていろいろなことを何世代にも渡った視点で見直しをさせられることと、現実是我が子を助けたくても助けられない老いと、だからこそ何があっても生きていける力を子どもに残していく子育てをとしました。

アタッチメント・ペアレンティングは大切です。

リトミックは認知スキルと非認知スキルを程よく混ぜた音楽メソッドです。なぜそれが可能か形にしたいものです。

リトミック講師 愛知県

遠藤 利彦先生 基調講演



乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達

前回、遠藤先生にご登壇いただいたのは、2017年の全国大会でした。そのときのお話の中でチラッと「非認知スキル」のことが触れられていて、わたしは、思わず反応し質問したのを覚えています。遠藤先生は、「非認知スキル」をどのように捉えていらっしゃるのか、もっとくわしくお聞きしたい。4年の時を経た2021年、ようやくその思いが遂げられた次第です。



ウィニコットの「ほどよい」がアタッチメントの原点

遠藤先生は、いつもアタッチメントの導入としてウィニコットのお話をされます。スヌーピーにでてくるライナスがいつも持っている毛布「ライナスの安全毛布(移行対象)」と「ほどよい関係性」。完璧な関係は、むしろ望ましくはないのだ。ほどほどによいくらいの関係がむしろ理想なのだという考えです。「移行対象」は、お母さんの代わりとなる決まったなにかのこと。お母さんといつも一緒じゃなくても大丈夫な「ほどよい関係」の象徴です。ウィニコットは、ボウルビーがアタッチメント理論を提唱する前の時代から、アタッチメントの概念をととてもよく表現してくれているのです。ここでウィニコットを引用されているところが、とても遠藤先生らしいと個人的に思っています。

アタッチメントのはく奪は、 子どもからなにを奪ったのか

アタッチメントは、通常なら当たり前には享受できる経験です。しかし、そのアタッチメントをはく奪されて育った子どもには、どんな影響があったのでしょうか。チャウシェスク政権下のルーマニアの孤児院で育った子どもたちの研究から、その答えを導きます。



それは、物理的には豊かな環境が整ったものでした。しかし、「人の手による世話」が著しく乏しかった。食べるのも、お風呂に入るのも、排せつさえ、すべてが数人の世話係によって一斉におこなわれました。いつも決まった養育者でもなく、怖いときにくっつくこともできない環境で育った子どもたち。そうした子どもたちに、生涯にわたる長期的な悪影響をあたえた要素とは？アタッチメントのはく奪によって、パーソナリティ形成を阻害し、生きていくうえでの困難を生むほどに大事なものは？

「自己と社会性」

「自己」とは、無条件に愛される価値を知っていること。基盤としての自己信頼。意欲、内発的動機づけ、自制心やグリッド（やりぬく力）、そして自律性と自立性。つまり自己成長力といったもの。

「社会性」とは、人を信じてよいと知っていること。基盤としての他者信頼。心の理解、コミュニケーション力、共感性、思いやり、協調性や道徳性、規範意識。つまり社会を生きるのに必要な力。

注目の『非認知スキル』の正体は、アタッチメントだった

「自己と社会性」は、教育や保育で注目される「非認知」の中核であると遠藤先生は言います。非認知スキルは、経済学者J・ヘックマンの研究によって近年広く知られるようになりました。これまでは、知能指数（IQ）やお勉強などの認知スキルが、いつも注目されてきました。ヘックマンは、頭のよさや将来の収入、あるいは幸福につながるのは、むしろ非認知スキルであることを解き明かしました。非認知スキルは、集中力や自制心、やりぬく力、自立性、あるいはコミュニケーション力や共感性、道徳観といった性格傾向です。その優位性は、大人になった40年後も持続することを証明しました。そして、非認知スキルの育ちのカギは、幼児期における子どもへの教育と親教育にあると結論づけました。



では、非認知スキルを育てるためにはどうしたらよいのでしょうか？

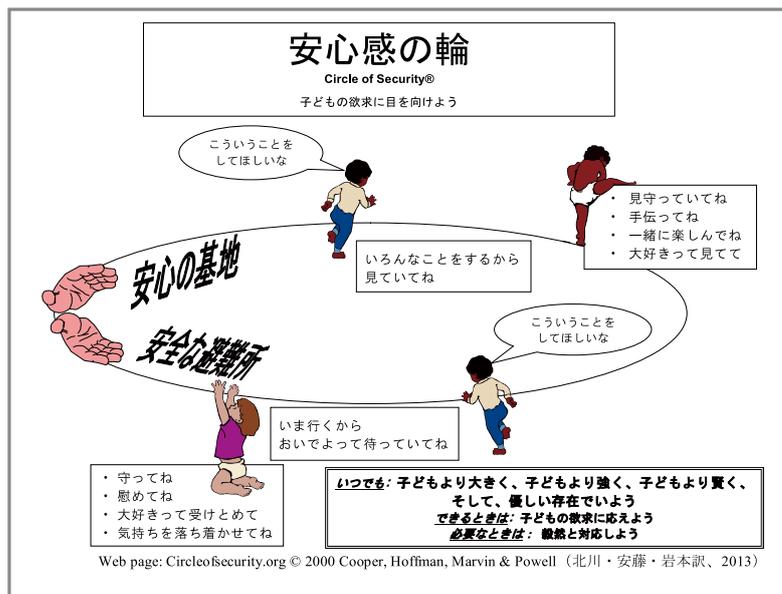
われわれがもっとも興味のあるこの問いに対する明確な答えは…

乳幼児期の「アタッチメント」にあります。

ぜひとも理解しておきたい「安心感の輪」

このことを遠藤先生は、おなじみの「安心感の輪」で解説してくださいました。重要なのは、親が「避難所」と「基地」の役割をきちんと果たすこと。

「安全な避難所」は、子どもが感情を立てなおす場所。子どもは、親のひざから一步踏み出して、探索の旅にでますが、不安になって「こわかったよ〜」と言ってもどってきます。そのとき親は、「こわかったね〜、もう大丈夫だよ!」と子どもを迎え入れてあげます。やがて、子どもは感情を立てなおし、落ち着きを取りもどします。



「安心の基地」は、探索を促してもらう場所。避難所で感情を立てなおした子どもは、「また行ってくるね!」と探索の冒険にでかけます。そのとき親は「がんばって行っておいで!」と背中を押し、応援し、見守ってあげます。それに後押しされて、子どもは安心して旅立つことができます。

こんどは、もっと遠くまで探索できますが、また、怖くなくてもどってきます。そうしたら避難所で立て直して、また基地で応援してもらって旅立ちます…

この探索の旅と感情の立て直しの繰り返しをとおして、子どもはいろんな発見をし、多くを体験し、成長します。この一連のメカニズムを「安心感の輪」という図をとおして説明することが出来ます。このいとなみによって、子どもの自己と社会性は、豊かに育ちます。別の言い方をすると、「このようにして非認知スキルは発達していくのです」

安心感の輪による自己と社会性の育ちにおいて、親の果たす役割は、非常に大きいことを、遠藤先生は指摘します。それは、非認知スキルの発達において、ヘックマンが「親教育」を要に挙げていたのと同じ文脈と言えます。

“特別”でもなく、“完璧”でもなく、「ほどほどによい」にこそ価値がある

今回の講演のテーマである「子どもの発達と教育」における「アタッチメントと非認知スキル」について、最後にまとめます。

アタッチメントにおいて、もっとも核となるのは「自己と社会性」の育ちです。これは、ヘックマンが指摘した「非認知スキル」と根っこのところで同じものです。どちらも、学力や能力、収入、



健康、そして人間性において、生涯にわたって大きな影響をおよぼします。

「自己と社会性」＝「非認知スキル」を大きく豊かに成長させることは、人生を幸せに生きることにつながります。そのカギは、乳幼児期の親による「安心感の輪」の回し方です。「安全な避難所」として、子どものくっつきに応え、感情を立てなおし、「安心の基地」として、子どもを勇気づけ、つぎの探索を促す。このくり返しを、たんと行う。子どもは、それを、やがて必要としなくなります。それでも、変わらずに、そこにあり続けることが重要です。

安心感の輪は、子どもに「特別なこと」をやってあげる以上に重要です。なにか特別なことをやってあげたり、完璧な子育てをしようとするのは、むしろ問題があると遠藤先生は言います。

子育ての原点は、ウィニコットの「ほどほどによい」なのです。非認知スキルの育ち、その先の生涯にわたる有能性、優秀性は、そうした子育ての先に存在するのだということを、遠藤先生の講演から、あらためて確認することができました。



一般社団法人 日本アタッチメント育児協会
理事長 廣島 大三





遠藤 利彦先生 基調講演

受講生の感想

正しい「アタッチメント」について理解し、 また保護者へ分かりやすく伝えていくワード を沢山知ることができました

「アタッチメント」についてしっかり理解していなかったことに気づきました。正しい「アタッチメント」について理解し、また保護者へ分かりやすく伝えていくワードを沢山知ることができました。

乳幼児期だけでなく、将来の健康にも影響すること等、いましか見えていない保護者にもきちんと伝えていきたいと思いました。もっともっと聞いていたい内容でした。

保育士 40代 新潟県

アタッチメントが築かれていると どんな風に育つのが理解できた

「アタッチメント」とは何か、またアタッチメントが築かれているとどんな風に育つのが理解できた。

子どもの成長において、「自発的」な行動を尊重すること、またそのためにはやはりアタッチメントが十分でなくてはいけないということがわかり、今後の子育ての核になる部分ができる。

人の育ちの土台となるものが、アタッチメントであり、いま自分は子育ての中でその土台をしっかりとつくってあげられていると自信になった。

40代 愛知県

このような機会を設けていただき ありがとうございました

アタッチメントについてあらためて自分の中に落とし込み、心の根っことなる乳幼児期の関わり大切さを積極的にお伝えしていくために、遠藤先生のお話が聞けて本当に感動しました。このような機会を設けていただきましてありがとうございました。

大切なポイントが分かりやすかったです。

保育教諭 50代 大阪府

乳幼児期に身につけておきたい、自己と社会 の力、自己信頼、他者信頼が重要であることを 再認識できました

コロナ禍における子育て、保育のところで、マスク装着の弊害が思ったより少ないのかもしれないことが心強く感じられました。

また、基本的なことですが、乳幼児期に身につけておきたい、自己と社会の力、自己信頼、他者信頼が重要であることを再認識できました。

看護師 50代 東京都

子どもの自発性を高めていくことを 保育のなかでも念頭において行いたい

子どもにとって完璧でない環境が大切なこと、そこから子ども自身がなんとかしようとして自分で抜けようとする、嫌な状態を跳ね返そうとすることでたくましい心を身につけていくということに納得した。

手を貸すことが最良ではないこと、子どもの自発性を高めていくことを保育のなかでもあらためて念頭において行っていきたいと思う。

保育士 50代 秋田県

乳幼児期の重要性を再認識し、 人間力のある子を育てたい。

保育の中で、非認知の力を育てるよう心がけております。

乳幼児期の重要性を再認識し、人間力のあるお子さまを育てたいと思います。

保護者さまには「安心の基地」となっていただけるようお手伝いして参ります。

保育士、親子教室、アートセラピスト、
幼・小学校入学準備 50代 東京都

優秀実践者表彰式・実践発表

保育・子育て支援部門

保育士

大月 由華 さん (香川県)

取得資格



「これでいいのか?」と悩む保育から、
「あれをしてみよう!これもためしてみよう!」の保育に



発達が気になる園児 A くんのために、 保育士としてなにかできないか?

小規模認可園で2歳児クラスの担任をしている保育士の大月由華さんは、園児のAくんのことを気にかけています。Aくんは、多動性がつよく、あまり目を合わせてくれることもなく、こちらの指示が入りにくいなど、発達障害の特徴が見られました。

「Aくんへの保育は、他の園児とおなじでよいのか?」

「なにかしてあげられることはないだろうか?」

「親御さんには、このことを伝えたほうが良いのだろうか?」

手あたり次第、本を読んでもピンとこない、いろいろやっても効果がみられない

大月さんは、Aくんとかかわりに自信が持てません。

園の誰かに教えを乞うこともできません。そこで、覚悟を決めます。

『自分が先に立って学び、伝え、知識を共有することで、園全体でAくんに同じようにかかわっていけるのではないか』

そして、発達障害についての本を手当たり次第に読んで、レジュメにまとめ、園内ミーティングで共有までしました。そこに書かれていることを、できる限り実践してみました。しかし、どれもうまくいきません。

アタッチメント発達支援は、 インクルーシブ保育に通じている

そんななか、たまたまインターネットを見ていて、日本アタッチメント育児協会の「アタッチメント発達支援アドバイザー講座」にたどりつきます。そこには『発達障がい児の保育や子育ては、健常児と基本的にはおなじ。それをより丁寧に、手をかけるだけ。そのためには、発達障がい児の特徴を知ることが大事だ』とありました。

大月さんは、障害の有無に関係なくその子らしさを尊重し、どの子ども主体的に園生活を送れるように一人ひとりを大切にしようとする「インクルーシブ保育」を“保育の理想のあり方”として、かねてより注目していました。「アタッチメント発達支援」は、このインクルーシブ保育を実践的に提案してくれていると直観的に思い、すぐに受講を決めました。



発達支援マッサージで Aくんに大きな変化が！

これまで、おひるねの時間に、Aくんには悪戦苦闘していました。布団に誘っても嫌がる、横になっても他が気になり遊びはじめてしまうという毎日でした。

大月さんは、講座で学んだ「衝動抑制の乏しさ」が関係していると考え、衝動抑制スキル獲得のための取り組みとして提唱されていた「発達支援マッサージ」を、毎日おひるねの前に実践しました。

何日かすると、Aくんに明らかな変化がみられました。最初の反応は、Aくんに足のマッサージをしていたとき。発達障がい児は、強めの刺激やしっかりしたマッサージ、つまむ、はさむ、などの動きを好むと習ったので、少ししっかり目に足の指をつまむマッサージをしていたときのこと。

Aくんが「アッ！」と足の指の感覚をはじめて知ったような反応をして、足の指を自分で見ようとしてしました。「足の指だね、おててもやってみる？」と声をかけ、反応を見ながら腕から手のひら、指、爪の先まで範囲を広げていきました。

発達支援マッサージによって、感覚統合が促され、苦手は軽減する

このAくんの反応について、わたしから少し解説します。発達障がい児は、身体地図がしっかりと形成されていません。そのため、自分のからだへの興味が薄いことがあります。これは、感覚統合といって“感覚を司る脳機

能の情報処理”がうまくできていないことから起こります。マッサージによって、全身に感覚統合を広げることは、発達支援の第一歩です。それによって発達障がい児の苦手は軽減されます。

発達の階段を、着実にのぼりはじめた Aくんの大きな成長ぶり

Aくんは、だんだんマッサージされているうちに眠りについてくれることが多くなりました。さらにこれまで、どの保育士にも一様に目を合わせることもなく、反応が薄かったAくんが、大月さんの姿を見つけると、「アッ、センセイ～」と声をかけてきたり、膝に座ってきたり、体にふれてくれるようになりました。これまでには見られなかったアタッチメント行動を、大月さんに示すようになったのです。

変化は、それだけではありませんでした。園には、生後7か月のAくんの弟も通っています。この弟に「ぎゅ～ぎゅ～」といいながら足をマッサージしたり、爪の先をつまんであげたり、お友だちに対しても、もみもみしている姿がみられるようになりました。自分で自分の指をマッサージしていることもあります。



変わったのはAくんだけじゃない

大月さんは、さらに他の保育士とマッサージのやり方を共有することで、園全体で、他の発達が気になる子や、寝つきの良くない子にマッサージをすることを試みました。

この取り組みによって、保育士の側の変化もみられました。寝かしつけが苦手な保育士が、マッサージの導入で、自分でもうまく寝かしつけられる自信がついたのです。

こうして、園全体でアタッチメントの大切さや発達障害そのものの知識が深まったことによって、保育の中で、できないことよりできることに目をむけることが増えてきたと言います。

大月さんの今後の展望

『子どもの生活時間のほぼすべてといえる遊びに、自然と発達支援につながるような運動や取り組みがあったら学びたい』という思いから、すでに「ベビーキッズ・あそび発達インストラクター養成講座」を受講した大月さん。

今後は、あそび発達で学んだ日常の遊びや、親子体操を園での活動に取り入れたり、家でも取り組んでもらえるようにプリントにまとめて親御さんに配布していきたいと言います。

将来的には、発達支援は気になる子だけのためのもの、というイメージをなくしていきたい。気になる行動は、子どもの「中」だけではなく、子どもの「外」つまり、保育士の子ども理解が十分でないために、保育の道筋がみえず、「気になる」という言葉を使っている場合もあると気づいたので、気になる子だけが気になるのではない、と伝えていける保育士でありたいと考えているそうです。

広島からの感想と応援

大月さんの保育は、「これでいいのか?」と悩む保育から、「あれをしてみよう!これもためしてみよう!」の保育に変わりました。きっかけは、学びをはじめたことでした。

「本を読む」という誰でもできる最初の一步を踏み出したときから、大月さんの物語は動き始めました。それは、すぐにうまくはいきません。しかし、本でダメなら研修を受けようと、次に進みます。もともと推進力のある方なのでしょう。

さらに大月さんは、講座で学んだことを信じて、素直に実践しました。この「素直な実践」が、簡単そうでなかなか出来ないのです。さらに、それを園で共有したことで、変化は、園全体におよんでいます。

これから大月さんは、ご自身が理想としてきた「インクルーシブ保育」を、本当の意味で実現していけることでしょう。わたしも、せいっぱい応援させていただきます。すばらしい活動報告を本当にありがとうございます。

大月さんの優秀実践発表の全文は「理事長ブログ」にてご覧いただけます。



<https://www.naik.jp/blog/director/archives/2605>

アタッチメント教室部門

あそび発達インストラクター

輪田 英里 さん (福岡県)

取得資格



学びの素直さと実行力で、ママから先生に

3歳までおうちで自分がみたい

独身時代の10年間、保育士をしていた輪田 英里さん。当時先輩からも「3歳まではおうちでみたらいいよ」と言われていたこともあって、「自分が子育てをするときには3歳までおうちで自分がみたい」と思っていたそうです。

そしていざ、子どもが生まれたとき思いました。

「せっかく3歳まで一緒に過ごすなら、できることすべてしたい!」

「どうして3歳までが大切なのか?」



「3歳までの遊びが発達にどう影響を与えるのか？」

「どんな遊びが、効果的に子どもの発達を促すのか？」

どうしたら、わたしの知りたいことが学べるの？

それら確かめたいと、輪田さんは考えました。どうしたら、これが学べるのか、インターネットで、いろいろ調べました。そのなかで、アタッチメントを学びのテーマとしている日本アタッチメント育児協会の思いに共感しました。さらに、輪田さんの興味にピッタリ答えてくれそうな講座をみつけることもできました。

それが「ベビーキッズ・あそび発達インストラクター」でした。「この資格を取りたい！学びたい！」とそのとき決めたそうです。

講座の一番の学びは、人の心理の原理に気づいたこと

講座のカリキュラムのなかの、育児セラピスト前期課程(2級)のなかでおこなった、「コフォートワーク」が、輪田さんには印象的で、多くの学びを得たと言います。これは、ハインツ・コフォート博士の自己心理学にもとづいたセラピー型ペアワークです。

このワークで、輪田さんは、感情があふれて思わず泣いてしまったそうです。同時に、いくつかの気づきがあったと言います。

「人は自分の苦手なことや弱いことは隠していて、言葉にはしないでいること」

「苦手なことや、弱いところを話すと、その相手とすごく信頼関係が深まること」

「日常では、なかなか『褒められる』ということがないこと」

ワークで感じた気づきから、「対お母さん力」をみつけた

この気づきを教室で応用して、お母さん方に、次のことを意識して関わっているそうです。

「自分の苦手なことも弱いところもさらけ出して話すこと」

「お母さん自身を褒めること」

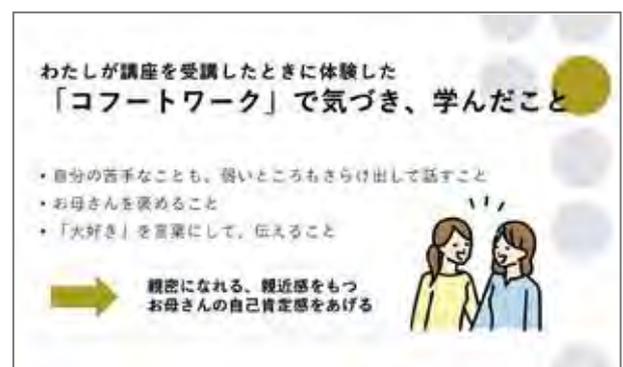
「大好きを言葉にして伝えること」

これにより、「親密になれる」「親近感をもってもらえる」「お母さんの自己肯定感をあげる」ことに繋がっていることを実感していると言います。

お母さんの興味は how to、だけどそれを教えるには理論が必要不可欠

「あそび発達」のカリキュラムについては、受講した当初、輪田さんはこんな感想をもったそうです。

「理論ばかりだな～、もっと～したらこうなる、こんな遊びをしたら、こんなふうにつなぐなどの遊び方が知りたかったなあ」





しかし、資格取得後に、はじめての教室をやるときに、輪田さんは、カリキュラムの本当の意味に気づきました。教室の指導案をつくる時、お母さんに実際に伝えるとき、理論を知って理解していないと、言葉にならない、伝わらない、話せない。

お母さんとしてのわたしは、how to を求めていた!しかし、その how to を教えるためには、理論が必要不可欠であること、応用がきかないことに気づきます。

この気づきは、大きいです。ここに気づけていなければ、生徒さんたちは、輪田さんを先生とは認めなかったはずなんです。

輪田さんのこれからの展望

そんな輪田さんの今後の展望は、

「お母さんそれぞれと1対1での関わりを濃くすること」、

「お母さんの声を聴く時間を多くとること」

だそうです。さすが、輪田さん。これは、どんな教室にもあてはまる教室運営において、もっとも核となる方針です。



そして、インストラクターとしては、情報交換、情報共有できる場をつくることと、そうした場で、お互いに質の向上をすることだそうです。そして、『お母さんが、安心して子育てができる社会』を目指すそうです。

わたしとしては、ぜひ、そこにお父さんやおじいちゃん、おばあちゃんも入れてほしいと思います。これからのアタッチメントのテーマは、アロマザリングですから。

広島からの感想と応援

お母さんとしての輪田さんは、育児セラピスト2級カリキュラムから大きな学びを得ました。その学びは、のちの教室運営におけるお母さん対応で、輪田さん固有の強み(USP: Unique Selling Proposition)となりました。これは、マーケティングにおける最重要要素です。

さらに、その後インストラクター(先生)になって初めて、あそび発達のカリキュラムの意味を理解しました。理論や枠組み、メカニズムを理解することの意味を知りました。how to だけを教えたのでは、生徒からの信頼は得られません。説得力もありません。最初は珍しがってくれても、すぐに離れてしまいます。長続きしない教室の多くは、これが原因です。

先生に理論が備わっているから、説得力がある。how to のひとつひとつに応用力が備わる。だから、生徒は先生と認めてくれるのです。そして、先生と認めた生徒は、簡単には離れません。ほかのお母さんにもクチコミしてくれます。結果として、教室は長く続きます。

輪田さんからは、教室運営の基本とマーケティングのかなめを学んでいただけることと思います。輪田さんのこれからの活躍を、わたしも応援させていただきます。すばらしい発表ありがとうございます。

輪田さんの優秀実践発表の全文は「理事長ブログ」にてご覧いただけます。



<https://www.naik.jp/blog/director/archives/2607>

表彰式の様子



左：大月さん 右：熊谷講師



左：輪田さん 右：熊谷講師

優秀実践者表彰式・実践発表への

感想

大月さんとは、発達支援アドバイザーの講習会で一緒に受けていたので、**あの時、悩まれていたお子さんのことかな？**と思いながら、アタッチメントを活用して、保育の支援に役立てていることを聞いて、私ももっと仕事の中で活用しようと良い刺激になりました。

輪田さんは**明るくて活動的で目指す女性像**でした。インスタは活用していますが、始動しようと思えました。

公務員 30代 埼玉県

大月さんも輪田さんも違う方法で子どもたちにアプローチされていて楽しく拝聴できました。

自分の子どもがADHDなので、**大月さんのような保育士がいてくれるんだと思うだけでも胸がジーンと温かくなる**ようです。

アタッチメントの輪が園全体に広がり、つながり素敵だと感じました。

輪田さんは転勤やコロナ禍で苦勞されたようですが、**時代の流れによって勉強もされてたくましい**ですね。お二人とも応援したいです！

デザイナー 30代 愛知県

輪田さんは、「子どもの心の根っこを育てる」など**目的をはっきり持っておられる**ので、参加のお母さんたちの信頼度が高かったと感じました。1対1の関わり、手紙を渡すのが新鮮だった。

子育て支援事業 60代 広島県

大月さんがインクルーシブ保育を目指されているとのこと、とても感銘を受けました。また、大月さんの**高い志が他の職員の方をも動かし、個々の保育観を同じ方向へとむかわせ、園に統一感が生まれてきている**とのこと、本当に素晴らしいと感じました。

輪田さんは、画面越しにも明るくチャーミングなお人柄が伝わってきました。インスタを集客に上手に取り入れていらっしゃるということで、その**活用方法などをもっと知りたい**です。

ライター 40代 愛知県

いつも優秀実践者の方のお話はいまの活動を続けていく勇気をいただきます。今回はとくに大月さんの発達支援マッサージについて、**私自身も園の3歳の自閉傾向の男児に手や足の指や足のマッサージを遊び感覚で行ったところ、言葉や目線は合わなくても体の力が抜けて表情が和らぐのを感じています。**

お母さまにもベビマの資料をお渡ししました。クラス運営をする担任の先生とはまた別の角度からのアプローチをさせてくれる園の方針のおかげです。

近年は、グレーゾーンのお子さんが多くなっています。それを受け入れて療育センターに相談されるお母さまもいらっしゃいます。その方たちにもベビマの大切さを伝えていきたいと思います。

保育士 60代 神奈川県

恒例! お悩みスーパーバイズ 2021



例年、ご好評いただいているスーパーバイズを、今年はリアル×オンラインで行いました。

「今抱えている問題・悩み」をグループごとに話し合ってもらい、それに対して当協会理事長の廣島のスーパーバイズのもと、参加者全員からも意見をもらう、というものです。

グループ1: オンライン会場

「若い保育士に、0・1・2歳の保育の大切さを伝えるには、 どのようにしたらよいでしょうか」

経験のすくない若い保育士に、「アタッチメントの大切さ」を伝えようとしても、伝わらない。これは、お母さんに対しても同じです。背景や知識、経験が違えば、おなじことを言っても、伝わり方が違うのは当然です。それ以前に、「聞くスイッチ」のはいっていない人に、教える形式で何かを伝えようとしても、聞いてはくれません。

よくない To Do を、よい To Do に変える 指導で、アタッチメントを伝える

概念や理論を伝える前に、日常の To Do レベルで指摘することからはじめる。

相談者さんが言っていた例で言えば、保育園でプール遊びをする場面で、若い保育士は、子どもを見てはいるけど、そばについてあげない。もっと近くにおいてあげてほしいのに。「アタッチメントの大切さがわかってないな～」と感じてしまう。



この場面で、To Do の指導をします。

『0・1・2歳児がプール遊びをするときは、今みたいに注意してみただけでは不十分なの。すぐに手を貸してあげられる近い場所にならずいて、見守ってあげて。』

『水をかぶって泣いてしまった子がいたら、「こわかったねー、大丈夫だよ!」といて、すぐに抱き上げてあげられるように。これは、“アタッチメント”といて、一番大切な保育士の役割なのよ』

アタッチメントについて「聞くスイッチ」が入ったら講義する

そのうち、「いつも先輩が言ってるアタッチメントについて、くわしく教えてください」などと言ってきたら、それがタイミングです。あるいは、今回発表してくれた大月さんのように、こちらから勉強会を仕掛けてもいいと思います。

「教えてください」と聞いてきた人も、勉強会に参加した人も、その時点で「聞くスイッチ」が入ります。そこで、「いつも言っているアタッチメントってこういうものだよ」と講義を始めるのです。



グループ5：オンライン会場

「今回のような最新の研究や活動のヒントを得るために、勉強会がしたいです」

かねてからのご要望ですね。今回の全国大会は、アタッチメント・アカデミアを拠点にした、定期勉強会を開催する上でのテストケースにもなると考えています。今後、「研究者と支援者をつなぐ学びの場」を、地方だけでなく、海外も含めて、対面・オンラインを問わず広げていきたいと思っています。

実際ふたを開けてみると、対面の会場とオンライン会場をハイブリッドにするとスゴイことが起きるのを実感しました。わたしがいるこの東京メイン会場と、各地方会場と、オンラインのみなさんが、まさに一つの場として、今回の全国大会が行われています。これまで東京と大阪だけで開催してきたときには、参加できなかった方も参加してくれています。

定期勉強会の方向性が見えてきました！ やりましょう！

この事実がわかったことは、今回の収穫です。ひとつの現実的な方向性が見えたからです。おそらく、勉強会はこの型になると思います。アタッチメント・アカデミアをメイン会場に、オンライン会場とつながって一つの

場を形成する。地方会場は設定しません。それは、身軽さを重視するためです。勉強会を月1で定期開催しようと思うと、メイン会場+オンラインのハイブリッドという型が、続けるのにちょうどよいのです。それ以上になると毎月は難しくなります。

わたしのなかでは、今回の全国大会でイメージはできています。アタッチメント・アカデミアという場も確保できています。残るは「定期勉強会」をカタチにすること。ご興味のある方は、ぜひ今後のお知らせにご注目ください。

わたし、やりますので！（「わたし失敗しないので！」風）



「小6の息子さんがゲームにはまって没頭することが多いのが気になっている」

この相談の背景には、ご主人が常に家でゲームをしている状況があるそうです。いまや、長男とご主人がつながるコミュニケーション手段になっているようなので、これで良いようにも思うがどうなのでしょう？とのことでした。

子どもに対するゲームやスマホの扱いは、自己都合を捨てて意図的に！

このゲーム・スマホ問題は、深刻です。子どもに与えるのは、よくないことは、親もなんとなくわかっています。同時に、大人にとって都合がよい事実もあります。このように、相反する事実を前にすると、人は自己都合を優先させます。

お父さんが子どもと遊ぶときに、スマホやゲームを持ち出すのは、自分も楽しいからです。やりたいからです。静かに没頭してくれれば、手間がかからないからです。まさに大人の自己都合。「ゲームを介して子どもとつながっている」というのも大人の自己都合です。ゲームは、

プログラマーが作った楽しみに乗っかる行為であって、コミュニケーションではありません。かく言うわたしも、ゲームは好きです。これは善悪の問題ではなく、「**子どもに対するゲームの扱いは意図的に行いましょう**」という話です。

そもそも、『なぜスマホやゲームがダメなのか』

これについては、2013年6月10日の理事長ブログで、「子どもに「電子」は触らせるな!」という題名で2回にわたるコラムに掲載しておりますので、ご興味のある方は、ぜひご参照ください。

<https://www.naik.jp/blog/director/archives/79>



『保育園で看護師として接するなかで、発達が気になる子が最近増えていると実感します。そうしたケースで、親御さんに働きかけや声かけをする際、いろんな親御さんがいるので、どうやって対応してよいのかわかりません』

まずは接触頻度をふやして 関係性を深める

保育園なら、定期的に地域の子育て支援の取り組みを、園の保育士さんがされていると思います。そういう場にスタッフ側として参加して、お母さんと顔見知りになることから始める。かなめは、接触頻度を増やすことです。

その際に、今日の発表で輪田さんがやっていたように、「相手を褒める」「大好きを言葉にする」「自分の欠点をさらけ出す」という関わりをすると、距離はグッと縮まりやすくなります。

同時に、発達が気になる子に対する 働きかけもおこなう

一方で、子どもには、発達支援的な関わりを継続的におこないます。ちょうど今日の大月さんの発表が参考になるかと思います。早ければ数日で、ちょっとしたよい変化がみられるはずですよ。

子どもに起きた「よい変化」を伝えて、 お母さんを巻き込む

お母さんとの関係性ができてきたところに、この「よい変化」を伝えます。



「お母さん、〇〇ちゃんは、これまで私たちにあまり興味をしめしてくれなかったんですけど、最近は『せんせー』っていっておひざに座ってくれたりするんですよ。これじつは、お昼寝の際にマッサージするようになったからなんです。もしよかったら、お母さんもおうちでやってみませんか？やり方は簡単なので、お教えしますよ」

こんなふうに、「よい変化」と「なにをしてそうなったか」を提示して、興味をもってもらう。次に、To Do や How to をつたえます。

さらに後日、お母さんがそれをやって感想などを言ってきたときに、理論的なことを伝える。そのような順番で伝えることで、伝えにくいことや興味をもってもらえないようなことも、伝わりやすくなります。



グループ8：名古屋会場

『ベビマ教室をやっていますが、行き詰まりを感じています。 なにかブレイクスルーがほしいです』

現在は、カフェや保育園などで、週1くらいでベビーマッサージ教室をされています。3年経って、そろそろ行き詰まりを感じており、ブレイクスルーのために、もう少し年齢帯を広く集めることを考えています。

もっと上の年齢帯の子どもにも なにかをやりたい

このお悩みは、バリエーションの問題かと思います。ベビーマッサージ教室をやっていると、かならず当たる壁です。当初の生徒さんのお子さんが大きくなって、「つぎにできることはありませんか？」というニーズがお母さんに生じてきます。3年というのは、まさにその時期です。

自分がスキルアップして、 メニューを増やす

ひとつは上の年齢に対応したメニューを自分で学んで、教室に導入する方法があります。ちょうど大月さんは、発達支援からはじめて、もっと日常の保育の活動すべてを発達につなげたいという思いから、「あそび発達」をつぎに受講することを展望として語っておられました。

この流れで、つぎに取り入れるなら「キッズマッサージ・アタッチメントジム」か「あそび発達」がやりやすいと

思います。ベビーマッサージの生徒さんにそのまま移行してもらえますし、大きい年齢帯の新規の生徒さんも入れることが出来ます。

コラボ企画をして、対象を広げる

もう一つは、輪田さんの発表にあったように、コラボするというのも可能です。別の何かをやっている人とコラボして、教室を開催するという事例も多いです。「あそび発達」の資格をもった人とやることも可能だと思います。

ただしコラボは、長期的に継続することはむずかしいので、年に何回かのエッセンスだったり、何がニーズに合うかを見極めるための試験導入に向いていると、個人的には思います。



グループ9：福岡会場

『園の5歳の女の子の自慰行為が心配なのですが、どう対応したらよいかわかりません』

保育士さんからの悩みです。しょっちゅう椅子をつかって自慰行為をしてしまう5歳の女の子がいます。そのことを、強く叱ったり、無理に禁止したりしてはいけないと聞いたことがあります、とのこと。

自慰行為は、気をそらして別のアクティビティと置き換える

幼児の自慰行為は意図的にやっているわけではないので、叱ったり無理にやめさせたりすれば、逆に悪化するでしょう。「気をそらして、別のアクティビティにもっていく」というのが望ましい対応です。これは、他の子の

おもちゃを取ってしまったときと似ています。本人に悪気はない発達段階の子には、「気をそらす」のが有効なのです。

いつも決まった先生が、アタッチメントを満たす

園でアタッチメントの対応をするときに、**ひとりの先生が、いつも対応する**点も重要です。保育園であることもよかった点です。毎日その子は登園しますので、家庭での取り組みを期待できなくても、園は、第二の家庭の役割を果たしやすいからです。

この女兒は、親からかまってもらえてない、つまりアタッチメントが満たされていないことが、自慰行為の根本にあります。お母さんが慰めてくれない、だれも慰めてくれない。その結果、自分で慰めるしかなかった。それが自慰行為です。そこへ、保育園の先生が、毎日アタ



チメント行動に応じてくれば、やがて自分で慰めることは少なくなります。満足すれば、行為はなくなるはずですよ。

さらにいえば、マッサージをしてあげる行為は、慰めの先の幸せや安心を与える行為なので、自慰行為の減少だけでなく、自己肯定感や好奇心といったもっと先の変化も期待できます。

お悩みスーパーバイズへの

感想

オンライン上で各地の方々となつなげることができ、とても楽しい場となりました。

“アタッチメントの重要性”を感じている仲間同士ということで、初めて会った方たちなのにどこか通じるものが感じられたことがとても印象的でした。2010年の3月に資格を取ってから眠っていましたが…シンポジウムに参加することで目覚め、初めの一步を踏み出したいと思わせていただきました。**全国に仲間がいるような、心強さやあたたかさを感じる**ことができましたと同時に、10年間音沙汰のなかった私を受け入れてくださった貴協会に大変感謝しています。ありがとうございました。

保育士 40代 東京都

オンラインでどれくらい交流ができるのかと半信半疑でしたが、同じ想いと悩みを持つ方々とすぐに打ち解けて、もっと時間が欲しいと思いつつお話を止めざるを得ませんでした。**東北から九州まで交流させていただき**、ありがとうございました。

認定こども園 学園長 60代 宮崎県

みなさんの発表から「**自分がトキメタ1つ1つに挑戦していけば、また、その1歩先が見えてくるよ**」「日常の中で to do を説明できるよう価値づけながら step を踏む」「アダルトアタッチメントはどんどん上書きすればいいんです」と自分の心に響く言葉がたくさんいただきました。

フラ講師、ハワイアンロミロミセラピスト、学童指導員、方眼ノートトレーナー 40代 愛知県

具体的な悩みを聞く中で、自分にも当てはまるものがあってハッとしました。

21歳の子に対する育児で、**育て直しというより上書き保存している**と聞いて、これから先も私にもまだまだできることってあるんだなと、あらためて感じました。講義で学んだことをスッと現実世界に持ってこれたと思います。

自営業 佐賀県

次回は会場参加にしようと思います！やっぱり…会いたいです！

子育て支援事業 50代 秋田県

スタッフより あしがき



太田 有香（事務局）

今回はハイブリッドでの開催ということで、私は東京会場で参加させていただきました。

前はオンラインのみの開催でしたので、直接顔を合わせてお話しすることができて嬉しかったです。多くの方にご参加、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

松尾 彰俊（システム）

今年度は名古屋の会場にて機器の操作や設置を担当させていただきました。

当日は雰囲気もよく、終始盛り上がり終えることができました。

いつ終わるかわからないコロナ禍ですが、参加者の方々のモチベーションの高さはそれをものもしないだろうと思えるような内容でした。

来年もお会いできるのを楽しみにしております。

福山 敦子（デザイン）

参加者として名古屋会場でみなさんと交流させていただきました！

私はふだん制作をメインでしており、会員のみなさまと直接やりとりする機会が少ないので、みなさんとお会いし色々なお話ができたことや会場の雰囲気を感ずることができてとても嬉しかったです！

桑山 美樹（事務局長）

12年目の育児セラピスト全国大会が無事終了し、ホッとしています。会場で、画面越しで、皆様とお話しすることができ、とても嬉しかったです。

アタッチメント・アカデミアも少しづつ始動していきます。

楽しみにしててくださいね。

塩澤 美月（事務局）

1年ぶりに、また皆さまにお会いすることができ、嬉しかったです。

東京会場にて直接お会いした皆様、インタビューに答えていただきましてありがとうございました！！今年こそ、コロナが終息し、もっと多くの方と直接お会いし、ご活動状況などについてお話ができれば嬉しいなあと思っております。

岸本 香織（編集）

今回はじめて、名古屋会場でシンポジウムに参加しました。

一人の親としてアタッチメントをより深く学ぶことができました。

そして、会員のみなさまに直接お会いでき、とても嬉しかったです。みなさまの生の声に触れ、より一層スタッフとしてお力になりたい！という思いが強くなりました！

あしがき

はじめての試み、ハイブリッド開催での全国大会でした。

終わった直後は、充実感とは程遠く、「ああすればよかった！」「〇〇を用意しておくべきだった」「あそこは、ああすべきだった」「あれを言い忘れた」・・・自分による自分へのダメ出しの嵐でした。全国大会を終えてからのこの2週間、今回の報告号の原稿を執筆しています。スキルアップの受講生からぞくぞく届く課題レポートを読んでいます。あらためて録画を見返しています。そして、ようやくこの「あしがき」の原稿を書いています。

不思議なことに、誰と対面で会っていて、誰とオンラインだったのか、わたしの脳は区別できていません。わたしが対面で会ったと思っていた人の多くは、オンライン参加の方や地方会場参加の方だったことに、録画をみて気づきました。とても不思議な感覚です。

対面とオンラインの狭間で、みなさんの熱心な姿勢、楽しそうな顔、発言する勇氣、それらに触れて、いまこう感じています。

「今年の全国大会は、いつにも増してよかった！一体感があつた」と。



(社)日本アタッチメント育児協会
理事長
廣島 大三

一般社団法人 日本アタッチメント育児協会の講座一覧

■ インストラクターになるための講座

✓ 育児セラピスト 前期課程(2級)を同時取得できます

アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター



お母さんにアタッチメントの大切さを伝え、豊かな母子関係を作るためのベビーマッサージを教える先生の資格です。

アタッチメント・食育 インストラクター



親が子どものために知っておきたい「心と体と知能を育むための食育」を、心理学・栄養学・歯学の観点から教える先生の資格です。

アタッチメント・ヨガ (for マタニティ&ベビー) インストラクター



妊婦さんとおなかの赤ちゃんの間のアタッチメント形成によって、出産や子育ての不安を取り除き、豊かな母子関係をつくるためのマタニティ・ヨガを教える先生の資格です。

ベビーキッズ・あそび発達 インストラクター



0～3歳の心を育て、脳を育て、体を育て、その後の豊かな能力形成の土台を作るための「あそびと発達」を教える先生の資格です。

プレスクール・あそび発達 インストラクター



3～6歳という、知能形成とパーソナリティ形成において、その後を左右する重要な時期に、子どもの人生にとって最良の幼児教育としての「あそびと発達」を教える先生の資格です。

アタッチメント発達支援 アドバイザー



発達障害や発達グレーゾーンについての基礎知識を学び、そうした子どもたちの発達のために出来る具体的なメソッドを学び、お母さんにアドバイスや指導を行うための知識とスキルを身に付ける講座です。

子育てマインドフルネス インストラクター



いまや精神医学における心理療法としても注目のマインドフルネス。「子育てマインドフルネス」は、ヨーガ、瞑想法、呼吸法というだけにとどまらず、脳科学や医学におけるエビデンスのもとに体系化しています。

NEW!

アタッチメント・ペアレンティング指導員

アタッチメントを軸に子育てをすると、子どもは有能に育つ。それは、理論と実践によって体系づけられた『子育ての秘技』。塾や習いごと、学校選び、夫婦関係から子育て方針づくりまで、0～18歳までの子育てをまるごと教える指導者のための講座です。

■ アタッチメントに基づく カウンセリングのための講座

アタッチメント心理 カウンセラー



『アタッチメント』の成り立ちから最新研究まで網羅的に学びます。そのうえで、アタッチメント理論にもとづく心理療法「メンタライズング」を基にしたカウンセリング法を修得、愛着障害の子どもへの支援についても扱います。

■ 「育児の専門家」になるための講座

育児セラピスト 前期課程(2級)



発達心理学やアタッチメント理論の基礎を学び、日常の育児や保育の現場で活かせる知識とスキルを学ぶ講座で、育児の専門家「育児セラピスト1級」取得のための基礎資格となる講座です。

育児セラピスト 後期課程(1級)



地域の子育て支援の現場において必要とされる「育児の専門家」として、根拠を持った育児指導やお母さんのメンタルサポート、育児を教える講座を企画できる知識とスキルを修得し、それを証する資格です。

育児セラピスト シニアマスター



「子育て」の域を超えて、「人生」という枠組みで、人の発達と成長を学ぶことで、自分の人生を再発見し、まわりの人たちの人生を見立て、あるいは、子どもだけでなく、親やその親の人生を見立てることで、人間関係を適性に導く役割を担うための資格です。

育児セラピスト・ライフサポーター



相手の「個」を見立てるアドラー心理学を、アタッチメント理論で解釈します。この二つの理論を両面から活用することで、対人関係スキルやカウンセリングスキルが一段あがるスキルアップ講座。自分自身、子ども、家族、仕事、すべての人間関係のための技術を学びます。

育児セラピスト トレーナー



講師や講演家として「教える・伝える・導く」スキルを専門的かつ実践的に学び、これまでに修得してきた知識とスキルを伝えるための資格です。後身の育成において活かせる資格であり、当協会の認定講師になるための基礎資格でもあります。

■ すでに教室をやっている先生が さらにステップアップをするための講座

AKM アタッチメント・キッズマッサージ インストラクター



「アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター」の上級資格であり、ベビーマッサージを卒業した1～6歳までのアタッチメントを育むためのキッズマッサージを教える先生の資格です。

AGM アタッチメント・ジム インストラクター



0～6歳の子どもの運動能力と、それに伴う知能、情緒の発達を目的とした、発達心理学と運動科学に基づく「親子体操」を教える先生の資格です。

大学認定養成校のご紹介

大学にとっての価値

- 他大学の同学部・学科との差別化をして、独自の特徴を打ち出せる。
- 保育士、幼稚園教諭、保育教諭あるいは、看護師、助産師などの専門性をさらに高める資格を学生に提供できる。その結果、学生や親御さんが大学を選ぶ際の動機となる。
- 専願・併願ともに入学希望者が増加し、入試の競争力が高くなる。その結果、学力レベル（学校偏差値）が上がる。

学生にとっての価値

- 保育士（幼稚園教諭、保育教諭）や看護師、助産師をはじめとする専門職が、現場で活用している資格を持って社会に出られる。⇒ 就職に有利
- 現職の方たちが学び、現場で活用している実践的な知識とスキルを、在学中に身につけることができる。⇒ 就活の面接に有利
- 資格取得に必要な科目を授業のなかで修得できる。⇒ 実費のみで資格の取得ができる

現在の認定養成校

- 淑徳大学（東京キャンパス）短期大学部 こども学科（2009年開始）
- 淑徳大学（埼玉キャンパス）教育学部 こども教育学科（2020年開始）
- 宝塚大学（大阪梅田キャンパス）看護学部 助産学専攻科（2014年開始）

宝塚大学 助産学専攻科

本専攻科は(社)日本アタッチメント育児協会より養成校としての認定を受けています。

確かな**助産技術**と豊かな**人間性**を育む

【お問い合わせ先】 入試課

☎0120-580-007

〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目13番16号



大阪 梅田キャンパス

| | | | |
|--------------------------------|---------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 阪急 大阪梅田駅 茶屋町口より 徒歩約5分 | JR 大阪駅 より 徒歩約10分 | 大阪メトロ 梅田駅 より 徒歩約10分 | 大阪メトロ 中津駅 より 徒歩約5分 |
|--------------------------------|---------------------------|------------------------------|-----------------------------|



「ABMアタッチメント・ベビーマッサーインストラクター」「育児セラピスト」
(社)日本アタッチメント育児協会認定養成校



淑徳大学（埼玉キャンパス） ● こども教育学科
淑徳大学短期大学部 ● こども学科



大学HP



短大HP

【淑徳大学 埼玉キャンパス】〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保 1150-1 Tel 049-274-1506 (アドミッションセンター 埼玉オフィス)

【淑徳大学 短期大学部】〒174-0063 東京都板橋区前野町 2-29-3 Tel 03-3966-7637 (アドミッションセンター 東京オフィス)

法人研修・団体研修のご紹介

資格講座の出張開催

● 関西看護医療大学 看護学部 様

助産、小児看護、母性看護などの先生（教授、准教授、講師、助教）8名向けに、『ABM アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター養成講座』を出張開催

● 福岡県子育て支援課 様

厚生労働省の緊急雇用対策事業における、福岡県基本的生活習慣修得支援員14名向けに『ABM アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター養成講座』を出張開催



その他、大学や自治体、団体様からの依頼で、これまでに多数の出張開催を行っております。

職員・支援者のスキルアップ研修・講演

● 長崎県こども政策局こども未来課 様

子育て支援対策臨時特例交付金（安心こども基金）による「地域子育て創生事業」において、長崎県全県の保育士、子育て支援員110名のベビーマッサージ研修を実施

● 日本保育協会・青森支部青年部 様

青森県内の100名あまりの保育士の研修で、協会代表理事の廣島大三が登壇

● 大阪府 泉佐野民間保育士会 様

泉佐野民間保育園勤務の保育士203名に向けて、ベビーマッサージ研修を実施

その他、研修、講演実績は多数ございます。



日本保育協会・青森支部青年部 様

お母さん向け教室・セミナーの開催・講師派遣

● 株式会社ファミリア 様

神戸本店にて、ABM アタッチメント・ベビーマッサージのレッスンを定期開催
オリジナルコンテンツ「パパと遊ぼう」を定期開催

● 高知大学 教育研究部医療学系看護学部門

ペアレンティング・サポートチーム 様

「パパもママもアタッチメント育児をしよう～子どもを伸ばす愛情表現～」をテーマとしてワークショップ型セミナーを開催



ファミリア 神戸本店

原稿・コンテンツ執筆・監修のご紹介

教室のオリジナルコンテンツ

● 株式会社ファミリア 様

神戸本店で定期開催する親子教室のオリジナル教室コンテンツ「パパと遊ぼう」を制作



カタログ、誌面への原稿執筆・監修

● マテル・インターナショナル株式会社 様

フィッシャープライス・ブランドの知育玩具のカタログ、産院配布用リーフレットのコンテンツを、協会顧問理事の細井香が監修、執筆



お気軽にご相談ください

- ◆ 大学認定養成校について詳しくお聞きになりたい、あるいは、導入のご検討をされている関係者様
- ◆ 法人研修・団体研修、原稿・コンテンツ執筆・監修をお考えの方

事務局

☎ 052-265-6526
✉ info@naik.jp



監修・発行：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

URL : <https://www.naik.jp> E-mail : info@naik.jp

TEL : 052-265-6526 FAX : 052-265-6529

・ 2022年1月3日 第1刷発行